奨励賞

お金を大切にする方法を考えよう

千葉県・市川市立百合台小学校

名川　智久

1. はじめに

総合的な学習の時間というと、主に国際理解、福祉、環境、情報、健康などという分野がすぐに取り上げられる傾向がある。このような中で金銭教育となると、小学生ではまだ早いなどと、どうしても敬遠されがちであった。しかし、金銭教育の必要性を次のように解釈し、実践したものである。

（1）小学校学習指導要領の総則第３総合的な学習の時間の取扱いの中で「学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること」と記載されており、金銭教育を通じて自己の問題解決や自己の生き方を考えることができる手段の一つであるからである。

（2）現在の日本の個人資産の総額は 1,400 兆円といわれる。近年「個人○○」という言葉をよく耳にすることが多く、たとえば「個人年金」「個人投資家」「個人国債」「個人輸入」などである。また、ペイオフ解禁などにより自己責任においてお金を管理する時代になってきている。このような時代だからこそ早期に金銭に対する知識や経験などが必要である。

（3）最近では「もったいない」という言葉があちらこちらで聞かれるようになった。その背景には、食べ物や物を大切にしていない実情がある。食べ物や物はお金がなくては買えない、そのお金は大切にするが、食べ物や物はどうかということを子ども達に考えさせる一つの手段として金銭教育が成り立つと思ったからである。

2. 目標１（総合的な学習の時間の年間目標）

（1）自らの学校生活や家庭生活を見直し、積極的に興味関心を示し、問題解決にむけて計画的、意欲的に調べ学習することができる。

（2）自分で調べてきたことを相手にわかりやすく伝える表現方法を見つけるために、様々な情報を取捨選択することができる。

3. 目標２（お金を大切にする方法を考えよう）

（1）お金の価値や使い方について、お互いに話し合うことができる。

（2）お金の使い方や使われ方について各自課題をもって調べることができる。

（3）調べたことを発表したり、他のグループの発表を聞いたりしながら、自分の考えを深めることができる。

（4）今まで学習してきたことをポートフォリオにまとめることができる。

4．事前調査

今回の単元「お金を大切にする方法を考えよう」の導入として、児童（3年生・35名）にアンケートをとり実態調査を行い、その結果が以下の通りである。

（1）おこづかいをもらっていますか？

・もらっている（73%）　・もらっていない（27%）

（2）もらっている人は月にいくらぐらいもらっていますか？

・　1円～　300円（23%）
・301円～　500円（27%）
・501円～1,000円（14%）
・たまにもらう（22%）
・お手伝い方式（14%）

（3）お金は大切だと思いますか？

・大切だと思ってる（100%）　・大切だと思っていない（0%）

（4）なぜお金は大切なのですか？（自由回答抜粋）

・お金がないと生きていけないから
・お金がないと物が買えないから
・親が一生懸命働いて稼いできているものだから
・働かないともらえないから

（5）お金を大切にするためにはどうしたらいいですか？（自由回答抜粋）

・無駄遣いをしない
・ほしいものを我慢する
・水や電気、ガス代などを節約する
・貯金をする（銀行に預ける）
・買う時にそれが本当に必要か考える
・おこづかい帳をつける
・お金を稼ぐための苦労を知る
・リサイクルする

5. 実践報告

事前調査からお金は子ども達にとって比較的身近なものであり、その大切さには気づいていることがわかる。そこで次のような活動を行った。

（1）お金の大切さやお金の使い方についてせまる。

導入としては、やはり子ども達の興味をひくために、ビデオ観賞として金融広報中央委員会からお借りした「ボクの犬小屋日記」と「100 万円あったら、どうする？」の２本のビデオを観賞させ、お金の大切さについてビデオを通じて知らせた。ここでの子ども達の感想としては、次のとおりである。

○「ボクの犬小屋日記」からの感想

「まさしくんは、犬小屋を作るために苦労したことをみて、お金を貯めるということは大変なんだなと思いました。また、人のお手伝いやいいことをすると気持ちがいいということがわかってよかったです。」

○「100 万円あったら、どうする？」からの感想

「10,000 円の紙切れがどうして 10,000 円なのかということがわかってよかったです。またお金には信用というものがあるということがわかりました。」

以上のような感想からもお金に対して興味・関心を引き出せたことが感じられた上、3 年生でも十分に「お金」について考えられることを実感した。しかし、ここまではあくまでも、客観的な立場での活動で終わっている。そこで自らが体験することが大切だと感じ、次のような活動を行った。

○あんびるえつこ先生を招いてのカレー作りゲーム

ゲストティーチャーとして「子供のお金教育を考える会」代表のあんびるえつこ先生をお招きして、「カレー作りゲーム」を体験した。子ども達は、「カレーの材料をどれにしようか」とか、「牛乳も飲みたい」などかなり迷う姿が印象的だった。ここから子ども達は、何かを手に入れる時には、何かをあきらめなければならないことに気づいていた。そこで自分で考え最終決断をしなければいけないことを体験した。これはお金を使う時と同様であることを再確認した。

（2）お金の大切さにせまり発表する。

ビデオやカレー作りゲームを通じてお金に対する関心が高まってきた中で、今後自分達は「どのようにしてお金を大切にするか」という課題設定ができたわけである。そこで各自、お金を大切にする方法をワークシート（お金を大切にする方法調べカード）に記入し、同じような考え方をもっている子ども達でグループを作り、以下のようなグループに分かれて調べ学習を行い、発表会を行った。

Ａグループ（おこづかいグループ）

このグループはおこづかいをもらった場合に、いかに無駄遣いをしないようにするかを考えた。具体的には、おこづかい帳をつけるということになったが、おこづかい帳とはどのようなものかをよく理解していないため、保護者に聞いたり、インターネットで調べたりして発表用の模造紙でおこづかい帳を作成し発表した。

今後はこのおこづかい帳を利用して無駄遣いや本当に必要なものなのかを見極める力を養っていきたい。

Ｂグループ（銀行グループ）

このグループはお金を大切にするには銀行に預けることが第一だと考え銀行について調べた。しかし、調べ方について悩む場面が多くどのようにしたらよいかと聞いたら「銀行の人に話を直接聞きたい」とのことだったので、地元の金融機関の営業担当の人に学校にきてもらい、様々な質問をした。そこで次のようなことがわかった。

・銀行はお金を貸して利益をだしている。
・僕達の預けたお金が、お金を必要としている人に貸し出されその人から利息をもらいその利息の一部が僕達の預金の利息になっている。
・銀行には貸し金庫がある。
・色々な手数料をもらっている。

以上のようなことを模造紙にまとめ発表した。

今後は銀行の役割を理解し、「自分達の大切なお金を銀行に預けているという感覚よりお金を銀行に貸しているという認識」をもってもらいたい。

Ｃグループ（節約グループ）

このグループはお金を大切にするには「節約」が一番だと考え、学校や家庭の電気代などを例に挙げて調べた。まずは学校の電気代をグラフに表した。ここで初めて子ども達は学校の１ヶ月の電気代がこんなにかかっていることに驚いていた。

そこで考えた具体的な節約方法が次の通りである。

・エアコンの設定温度は、夏は 28℃、冬は 20℃に設定しましょう。
・使わない時はコンセントをぬきましょう。
・音楽室や図書室に行っている時は、教室の電気を消しましょう。
・テレビやラジカセを使わない時は主電源をきりましょう。

以上学校のことに加え、家庭での節約方法についてもグラフなどを使い発表した。

このグループのいいところは、通常であればこのような節約方法は当たり前であるが、この方法を子ども達自らが調べて提案してきたことであり、そして現実的ですぐに実行できることに意味がある。今後は実践し、それを持続していってもらいたい。

Ｄグループ（給食・落とし物グループ）

このグループは給食の残飯や教室の落とし物箱に目をつけ、「もし給食を残さなかったら」「もし落とし物をしなかったら」という仮定に基づき調べ学習を行った。

具体的には、嫌いな食べ物のアンケートをとったり、実際に残飯を栄養士の先生に聞きにいき、残飯の重さや、もしそれをお金に換算したらいくらぐらいになるかを調べたり、教室にある落とし物箱にある物をお金に換算したりした。特に残飯をお金に換算することでどれだけお金を無駄にしているかがよく理解できていたようである。ちなみに、８日間で出た残飯は重さ 169.3kg で金額にすると 63,516 円であった（全校児童 425 名）。このようなことをグラフなどにまとめ発表を行った。

このグループは、教職員や保護者などにも課題を与えた。いかに物を無駄にしているかということを数字で表すことにより、より無駄を身近に感じたものであった。

Ｅグループ（買い物グループ）

このグループは「買い物をする際にいかにお金を大切にできるか」をテーマに調べ学習を行った。ここのグループの調査は主に「聞き込み」であった。両親はもちろんのこと、教師や地域の人までインタビューなどをして情報を集めた。その情報を集めた結果が次の通りである。

「買い物を賢くできる方法」

1．余計な物を買わないように必要な物だけをあらかじめメモしていく。

2．お買い物袋を持参し､お買い物袋スタンプをもらう（スタンプが 20 個たまると 100 円の商品と交換できる)。

3．時間を見計らって値引きシールを貼ってある物を買う。

4．本当に必要な物かよく考えて買う。

5．チラシを比較する。

6．今までの経験を生かし底値帳を作り活用する。

以上のことからチラシや模造紙に底値帳を作り発表した。

このグループは情報量を武器にいかに「賢い消費者」になるかを追求していった。

Ｆグループ（お金を稼ぐ大切さを知るグループ）

このグループは基本にかえりお金を使うことよりも稼ぐ立場にたってお金の大切さを調べた唯一のグループである。このグループは両親の仕事の話だけでなく、商店街のお店にインタビューをして働くことの大変さを聞きそれを発表した。

特に、精肉店へのインタビューでは「朝早くから夜遅くまで働いている」とか、「冬は手が冷たくて大変」など大変なことばかりでなく、「お客さんにお肉美味しかったとか言われた時がとても嬉しい」などというような働き甲斐のある話も聞いた。

このグループは、お金を稼ぐことは大変だということを実際に働いている人に聞くことにより、「働くことは大変だけれども嬉しい時もあるんだ」というようにキャリア教育的な経験をしてきた。

以上のように各グループとも「お金を大切にする方法」というテーマで様々な角度から課題にせまり、まとめ発表を行った。発表会では、保護者をはじめ地域の方々にも観てもらい様々な感想をいただいた。

（3）今までの学習をまとめる。

以上のように６グループの調べ学習と発表が終わり、ここで一息ついてしまいがちだが、ここからが大切であり、今まで学習したことをポートフォリオにしてまとめた。

ポートフォリオ作成については以下の点に注意をし作成することにした。

(注意点)

・誰が見ても何の学習をしたかがわかること

・今まで学習してきたことのまとめをすること

・今後どのようにしていきたいかを確認すること

このような注意点をもとに各自で、ポートフォリオを作成した。

6. 成果と今後の課題

(1) 成果

今まで、何気なく生活の中でお金を使っていたが、「お金には信用があるんだ」とか「お金を大切に使わなくては」とか「働くことって大変だな」など近くて遠い存在であったお金のことが少しでも身近に感じられると同時に、これからの生活に役立てていけるようになった。特に節約面においては、学校内でこまめに電気を消したり、水道の水をあまり使わないようにしたり、給食を残さないようにしたりするなど、まずは、自分のできることから行えるようになった。

(2) 課題

今後も今まで学習したことを忘れずに継続していくことが大切であり、毎年何らかの形で、「お金に関する学習」を残していく必要がある。また、お金という観点から発展して環境・福祉・国際理解など幅広い分野への興味・関心などへの広がりが持てればよいと考える。

(参考図書など)
・『小学校学習指導要領』　平成10年12月　P２～P３
・ビデオ『100万円あったら、どうする？』　金融広報中央委員会
・ビデオ『ボクの犬小屋日記』　金融広報中央委員会